

当案内及び過去に発行した案内は弊社ウェブサイト(<http://www.medience.co.jp/>)よりPDF形式にてダウンロードできます。

## 新規受託項目のお知らせ

拝啓 時下益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

平素より格別のお引き立てをいただき、厚くお礼申し上げます。

さて、弊社では皆様のご要望にお応えするため、検査の新規拡大に努めておりますが、この度、下記項目の検査受託を開始することとなりました。

取り急ぎご案内致しますので、宜しくご利用の程お願い申し上げます。

敬具

### 記

#### 新規受託項目

- [27317] 感染性ぶどう膜炎マルチスクリーニング

#### 受託開始日

- 平成30年8月1日(水)



# 感染性ぶどう膜炎マルチスクリーニング

ぶどう膜は眼科領域における虹彩・毛様体・脈絡膜の総称であり、ぶどう膜炎は何らかの原因によりそれらの部位および隣接する組織に炎症を起こすもので、視力の低下や重篤になると失明に至ることもある疾患です。

ぶどう膜炎の原因は多岐にわたりますが、非感染性(80%)および感染性(20%)の二つに大別されます。なお、ぶどう膜炎症例の1/3は原因不明とされていますが、非感染性ぶどう膜炎の原因として最も多いものは、原因不明の難病である「ベーチェット病」や「サルコイドーシス」および「Vogt-小柳-原田病」であり、三大ぶどう膜炎と呼ばれています。

一方、結核性ぶどう膜炎、ヘルペスウイルスによるぶどう膜炎、トキソプラズマ網膜炎、サイトメガロウイルス網膜炎、細菌性眼内炎など、病原体の眼内への感染で起きる場合もあります。

さらに非感染性と感染性の鑑別は困難な場合があり、感染性ぶどう膜炎が非感染性と診断され、副腎皮質ステロイドの投与などが開始された場合、さらに重大な事態を引き起こす危険性があります。

「感染性ぶどう膜炎マルチスクリーニング」は感染性ぶどう膜炎の原因となるもののうち9種類の病原体をマルチプレックスリアルタイムPCR法により網羅的に検出することが可能です。

本検査は微量の検体から病原体を検出することが可能なため、ぶどう膜炎の早期の原因鑑別および治療に関する有用性の研究に期待されています。

## 検出可能な病原体

単純ヘルペスウイルス(HSV1、2)、水痘帯状ヘルペスウイルス(VZV)、EBウイルス(EBV)、サイトメガロウイルス(CMV)、ヒトヘルペスウイルス6型(HHV6)、HTLV-I、梅毒、トキソプラズマ

## 検査要項

項目コード	27317
検査項目名	感染性ぶどう膜炎マルチスクリーニング
検体量/保存方法	眼内液(前房水または硝子体液) 75 $\mu$ L / 凍結* [容器番号:87番]
検査方法	マルチプレックスリアルタイムPCR法
基準値	検出せず
所要日数	2~4日
検査実施料	未収載
備考	*必ず専用検体としてご提出下さい。

容器番号	87	感染性ぶどう膜炎マルチ検査用容器
採取容器		
		
添加剤	-	
保管方法	常温	
有効期間	容器表示	

## 参考文献

- 中野聡子：眼科 59(12)：1479-1484, 2017.  
蕪城俊克：Retina Medicine 5(2)：163-168, 2016.